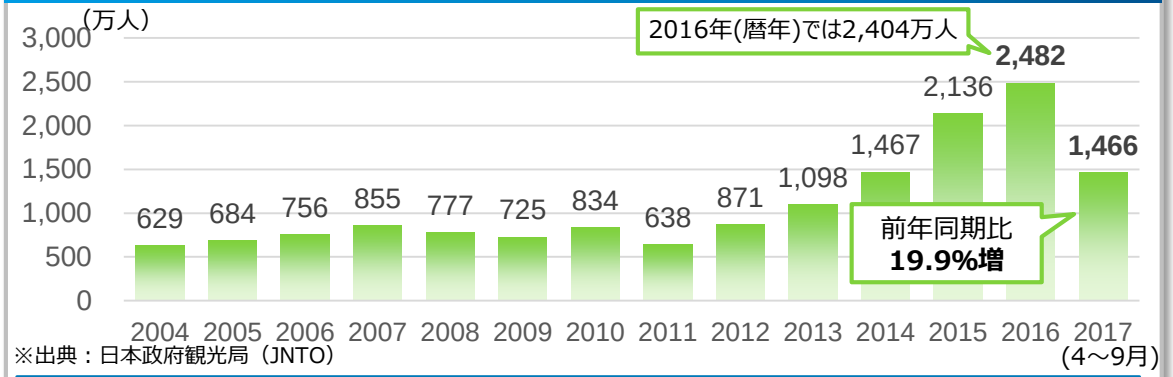
経営概況

訪日外国人の足元の動向

Narita Airport

- 日本全国の訪日外国人旅行者数は、政府の施策や航空路線の新規就航・増便、継続的な訪日旅行プロモーションの効果等により引き続き好調、過去最高であった2016年度を上回るペースで推移
- 成田空港における国際線外国人旅客数も引き続き旺盛な訪日需要や航空路線の拡充等を背景に好調に推移

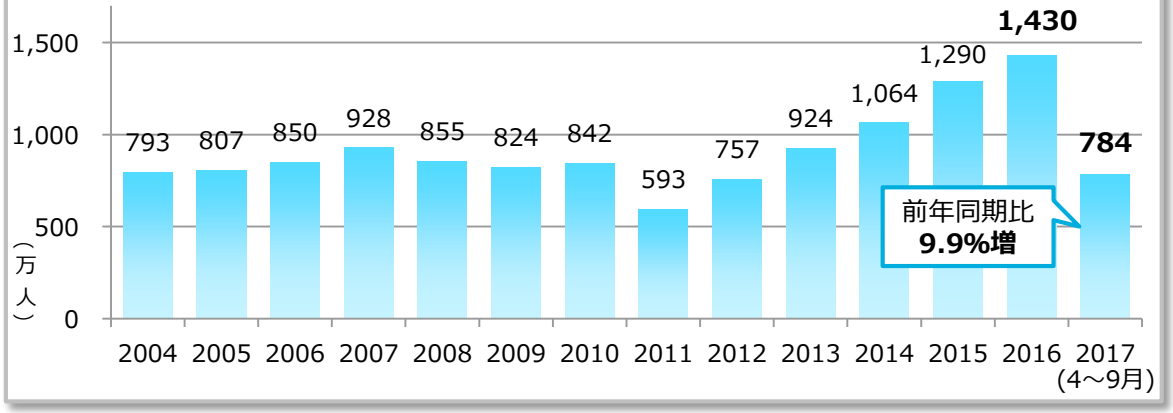
日本全国における訪日外国人旅行者数推移（年度）



※出典：日本政府観光局（JNTO）

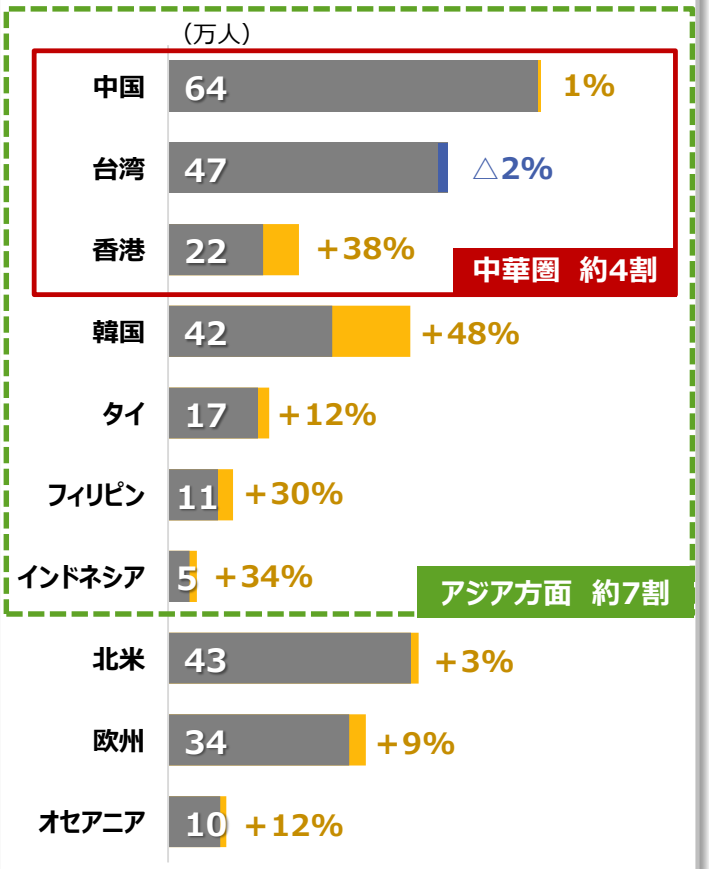
【政府目標】訪日外国人旅行者数
2020年：4,000万人、2030年：6,000万人　を目指す

成田空港における国際線外国人旅客数推移（年度）



成田空港における外国人入国者数と前年同期比

2017年4月～8月



出典：法務省出入国管理統計より集計

羽田空港国際線二次増枠以後の状況

- 羽田空港国際線二次増枠により、それぞれの段階で成田空港において減便はあったものの、いずれも新規就航・増便等で乗り越えた結果、二次増枠前に比べ大きく成長
- 羽田空港国際化の動きは米国便就航をもって一段落。2020年予定の3.9万回増枠までは大きな動きはないものと考えている

成田空港の取扱量等推移

	国際線発着回数	国際線旅客数	海外就航都市数	羽田空港二次増枠による減便
羽田空港二次増枠前	(2013年度) 17.8万回	3,086万人	101都市 ※1	△69便/週
	1,659便/週 ※1			
	+2.2万回	**+185万人**	**+9都市**	△39便/週
	+211便/週			
現在	(2017年度) **20.0万回** ※3	**3,272万人** ※3	**110都市** ※2	△42便/週
	1,870便/週 ※2			

※1…2013年冬ダイヤ期初時点
※2…2017年冬ダイヤ期初時点
※3…2017年度見通し

羽田空港二次増枠等

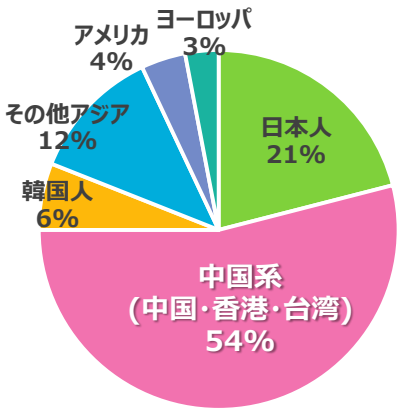
具体的な内容	羽田空港からの就航先	時期
✓ 国際線旅客ターミナル拡張 ✓ 国際線昼間約3万回増枠	＜ヨーロッパ方面＞ ロンドン、パリ、フランクフルト、ミュンヘン ＜北米方面＞ バンクーバー、トロント ＜東南アジア方面＞ シンガポール、バンコク、ハノイ、マニラ、ジャカルタ	2014年3月
✓ 中国路線　昼間未配分枠への就航	北京、上海（浦東）、広州	2015年10月
✓ 米国路線　既存深夜早朝枠の昼間への移行および増枠	＜昼間への移行＞ サンフランシスコ、ロサンゼルス、ホノルル ＜増枠＞ ニューヨーク、シカゴ、ミネアポリス、コナ	2016年10月
✓ 滑走路運用・飛行経路の見直し（都心上空通過）等により、発着回数3.9万回増加		2020年予定

リテール事業の足元の動向

- 中国系旅客は、国籍別売上高シェアで過半を占め、購買客単価も高く、爆買い時の水準に戻りつつある
- 国際線外国人旅客数の増加やナリタ5番街内ブランドブティックオープンの通期化、販売促進施策の効果等もあり、空港内店舗売上高は前年同期比で増加

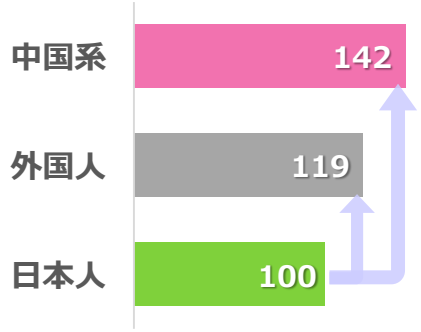
旅客データ(2017年4～9月)

国籍別売上高シェア



購買客単価

✈ 日本人を100とした場合の単価



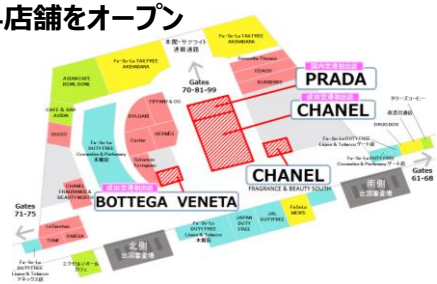
2016年度(下期)の取り組み

「NARITA Dining Terrace」のオープン

✈ 日本食専門店6店舗をオープン

「ナリタ5番街」内、ブランドブティックのオープン

✈ 新たに4店舗をオープン



更なる販売促進施策

✈ 売上や購買単価の高い訪日外国人のお客様を中心に販売促進施策を展開

- 中国電子決済ツール「Alipay」「WeChat Payment」を導入
- 中国のお客様向けの販売促進WEBサイトを開設し、情報を掲載
- 中国のお客様向けSNS「WeChat(微信)」やAlipayアプリ内「Discover」の活用
- 現地訪日旅行WEBサイト上でのPR（台湾、韓国）、パワーブロガーの活用（タイ）

＜中国系旅客の購買客単価の推移＞
※2015年度を100とした場合

2016年度		2017年度		
上期	下期	1Q	2Q	上期
85	93	95	99	97

＜空港内店舗売上高（前年同期比）の推移＞

2017年度	1Q	2Q	上期
飲食店	110%	108%	109%
物販店	102%	104%	103%
免税店	110%	128%	119%
合　計	107%	116%	111%